

表紙, 目次, 雑纂, 通信, 雑報

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38347

明治四十五年四月一日發行

十全會雜誌

第七十卷

第四號

(第七十五號)

全澤醫學專門學校十全會

十全會雜誌 第十七號卷第四 (第七十五號) 目次

○原著及實驗

- 角膜炎全葡萄腫ノ手術ニ就テ。醫學博士 高安 右人 一
- 惡性脉絡膜上皮腫ノ一例。醫學士 鬼頭 英二 二
- 出血性肉腫ニ就テ。ドクトル 飯森益太郎 三
- 剝脫性皮膚炎ノ二例。山田孝太郎 四
- 喉頭乳嘴腫ニ就テ及其治驗。加納景成 六
- 定期性四肢麻痺。福田美明 七
- 淚腺ニ發生セル腺腫性癌ノ一例。佐竹秀一 一三

○雜纂

- 古代ノ解剖學史。金子治郎 一五

○通信

- 市村氏通信。●李廷權君通信。●京都同窓會通信。●京都會員通信。
- 中川善松氏通信。

○海外雜報

- 蘭領東印度の本邦醫師に關する事情。●獨逸留學者の便利。●獨逸の病院數。

○内地雜報

- 全國公私立病院。●醫師の増減。

○校內雜報

- 講話會小會の記事。●樂二級會。●第五回小立野俱樂部例會。●第六回小立野俱樂部例會。●恩師泉頭先生を送る。●藏光教授を迎ふ。

○叙任及辞令

- 内閣。

○人事

- 丸山友直氏。●澤村恒松氏。



ナリ

終リニ臨ミ恩師高安博士ガ貴重ナル材料ヲ與ヘラレタルト村上教授ガ御懇篤ナル御指導ニ感謝ノ意ヲ表ス



雜 纂

● 古代ノ解剖學史

金子治郎

初メテ人間ノ腦裏ニ浮ヒタル思想中解剖學ニ關スルモノホド大古ナルハナカルベシ、人間ガ世界ニ出顯スルト同時ニ男女ノ間ニ體部分ニ相異ノ点アリテ相戀ヒ、摺ムニ手アリ行クニ足アリ視ルニ眼アリ、口アリテ食シ鼻アリテ嗅キ耳アリテ聽クコトヲ直ニ自覺セシヤ言フマデモナク、死體ノ腐爛ヨリ内部ニ骨骼ノ存在スルコトモ知り、自己營養ノ必要ヨリ狩リ獲タル動物ヲ割キ臟腑ノ存在ヲ認メ、尙ホ「ノイギーリヒカイト」ノ慾念ニ驅ラレ臟腑ノ内部ヲ見テ食物ノ胃中ニ收マルコトモ知得セシニ相違ナシ、去レハ形態學上ノ觀念ハ遠ク開闢ト共ニ人意ノ自然ニ出デシモノト言ハサルベカラズ、斯クテ次第ニ人間ノ増加スルニツレ生テ競争ヲ生シ、競争ハ爭鬭ニシテ、爭鬭ヨリ負傷ヲ招キ、負傷ノ大ナルハ他ニ委賴シテ之ヲ療シ、

是ヨリ外科醫モ生シタルベク、從テ彼等ハ治療上ノ必要ヨリ進テ體部分ノ知識ヲ求メタルヤ當然ノコトナリ、斯ノ如クシテ星霜ノ移ルニ從ヒ事ハ漸ク發展セルナリ、之レ解剖學ノ自然的進運ニシテ、既ニ知識ノ要求ガ「ノイギーリヒカイト」ノ範ヲ脫シテ治療者ノ手ニ歸シタルハ當サニ斯學ノ端緒ヲ啓開セシモノトスベシ

以上ハ後世ノ人智ヲ標準トシテ往古ヲ推測セルノミ、大古ノ真相ハ素ヨリ得テ稽フベラス、而シテ有史以來解剖學ニ關シ記錄ノ報スル所ハ概ネ希臘幾盛時以後ノ事ニ係レリ、希臘幾タルヤ今ハ巴爾敢半島ノ南角ニ於テ僅ニ餘喘ヲ保ツニ過キサレ一小弱國ト雖トモ、西紀前四五百年間ハ版圖モ廣ク歐洲及西亞ニ於ケル開化ノ中心トシテ世界ノ文明始リト茲ニ集中シ、學問亦隆盛ヲ極メ碩學高儒雲ノ如ク輩出シ治ク四海ヲ風靡セリ、就中彼ノ「イオニヤ」學派トシテ芳名竹箔ニ暉クモノハ「アラクリトス」「アナクサゴラス」「エムペドクレス」等ノ人々ニシテ之レ等ハ哲學ニ秀ツ、次テ「アテーネ」ノ「ヒポクラテス」アリ、「マケドニヤ」ノ「アリストテレス」アリ、殊ニ「アリストテレス」ハ哲學ノ大家ニシテ其知識宏大無邊治ク諸學科ニ涉リ、遂ニ自然科學ノ立脚地ヨリ哲理ノ一元論ヲ首唱シ、又一面ニハ生物學ヲ初メテ眞性學の基礎ノ上ニ据附タリ、其後彼ノ蓋世ノ英雄歷山大王ノ歿後、學問ハ一時埃及ニ移リ、次テ羅馬ニ轉シ、茲ニ於テ「ガレメス」ノ如キ大家ヲ出タシ、學運尙駁々トシテ發展シツ、アリシガ、是ヨリ幾ハクモナク妖雲西天ヲ掩ヒ歐洲ノ大變亂トナリ、自後數世紀ノ間干戈收マルノ時ナク、劍戟ニ忙ハシクシテ學術ヲ看ルノ暇ナク、不幸在來ノ記錄ハ大半烏有二歸シ、其纖力ニ兵燹ヲ免カレタルモノハ遙カノ後亞刺比人ノ手ニ傳ハリ（西紀六百年代亞刺比人方「アレキサントリヤ」ヲ占領セシ時？）アラビヤ語ニ翻譯セラレ一時世ニ稱用セラレタリ、後世之レヲ「アラビスムス」ト云フ、今尙學問界ニ「アラビヤ」稱呼ヲ留ムルモノアルハ即チ茲ニ由來ス、去レト亞刺比學派中偶々「アピセンナ」ノ如キ大家ナキニアラスト雖トモ、人體解剖ノ

如キハ「コーラン」(同同教議)ノ嚴禁スル處ナレハ、實驗的進步ハ毫モ之ヲ見サリシノミカ事實ハ往々神秘ノ裡ニ葬リ去ラレ、或ハ相傳ノ間ニ誤錯ヲ醸シ、先哲ノ功績ハ却テ大ニ毀損セラレタリト云フ

斯クテ歐洲ノ大乱漸ク治マリ、諸物次第ニ緒ニ就キ、學問亦次第ニ復活ノ氣運ニ遭遇シ謂ユル復活期(レスタウラチオン)ハ來レリ、去レト當初ハ遲タトシテ進マズ、十三世紀ノ末葉ヨリ十四世紀ノ初頃ニ至ルマテ尙彼ノ「アビセンナ」等ノ遺墨ヲト守シ未タ「アラビスムス」ノ羈絆ヲ脱セザリシガ、于此再ヒ眞性學術の運勢ヲ啓キタルハ謂ユル「ボ、シェーレ」ノ開設ニ起因セリ、此高等學校ハ初メ伊太利ニ起リ次ニ西班牙ニ起リ次ニ佛國ニ生レ、爾後殆ント競争ノ有様ヲ以テ續々建設サレ、須臾ニシテ歐洲到ル所之レヲ見サルナキニ至レリ、而シテ解剖學ハ先ツ伊太利ノ「パドア」、「ボロシナ」、「モンテペリール」ニ發達シ、次テ巴里ニ移リ、知名ノ學者モ亦タ續々トシテ顯ハル、於于此乎從來「アラビスムス」ニ支配サレタル學權ハ是等新進氣鋭ノ學者ノ手ニ移リ、竟ニ「アラビスムス」ハ一敗地ニ塗レテ隻影ヲ止メス、爾來學運ハ駁々トシテ進ミ以テ今日ノ隆盛ヲ致セルナリ、以下「ギリシヤ」盛時ヨリ歐洲變乱ニ至ル古代史中著名學者ノ功績ヲ略叙セン

Hippocrates ハ西紀前四百六十年ヨリ三百七十七年ニ生シタル人ニシテ「コス」島ノ名族「アスクレピアーデス」ヨリ出テ祖父及父ハ有名ノ醫師ナリキ、「ヒポクラテス」ハ幼ニシテ父ニ學ヒ後「アテーネ」ニ遊學ス、「アテーネ」ハ宛モ穎才「ペリクレス」方政權ヲ掌握セル時代(ペリクレス時代ト云フ)ニ屬シ學術隆盛世界ニ冠タリ、氏ハ即チ大ニ學ヒ當時ノ貴族及學者ト深ク交ハリ頗ル德望ヲ負ヒ門下ニ集マルモノ亦甚多シ、後チ「アリストテレス」ノ如キ大學者スラ彼レヲ呼テ「大ヒポクラテス」ト稱セリ、以テ奈何ニ其學德ノ崇カ、リシカヲ窺フニ足ラン、「ヒポクラテス」一派ノ記錄ハ「ヒポクラチスムス」ノ名ヲ以テ世ニ傳ハル、但シ後世他人ノ手ニ成リシモノモ同名儀ヲ以テ混同セリ之レヲ「プソイドヒポクラチスムス」ト稱ス

「ヒポクラテス」ハ深ク人體ニ就テ解剖研究ヲ爲シタル事蹟ナシ、去レト從來神秘トシテ隱匿セラレタル事實ヲ探求シ之レヲ窺メテ自他ノ利用ニ供シ尙動物ノ研究ニ由リ大ニ之レヲ補充セルガ如シ、當時唱フル所ハ假令ハ肝臟ハ血液ノ製造所ニシテ、血管ハ肝臟及脾臟ヨリ發シ、空氣ハ肺ヨリ左心ニ入リ是ヨリ動脈ヲ通シテ身体ニ巡ルモノトセリ、乃チ動脈ハ空氣ヲ通スル道路ト思惟セリ「アルテリヤ」ノ名茲ニ因ス、又筋ハ總括シテ單一肉ト稱セラレ、神經腿靱帶ノ如キハ混同サレ未分議セス、而シテ是等ハ皆動物解剖ニ由リテ知ラレタルモノニシテ、人身體ニ就テハ只頭蓋骨ト其縫合等ヲ知レルノミ、又「ヒポクラテス」一派ノ中既ニ腦ヲ以テ思慮及感覺ノ宿トル所ト看破セルモノアリシモ、又一面ニ於テハ之レヲ以テ粘液ノ貯溜所ト爲シ、未ダ孰レトモ確定セザリキ

抑モ醫學史ヲ說クモノ先以テ筆ヲ「ヒポクラテス」ニ起コス、去レト此人ヲ以テ醫學大祖ノ第一人ト思惟スレハ即チ過マレリ、是ヨリ先キ既ニ「ギリシヤ」派ノ完全ナル醫學學校ハ諸所ニ存在セリ、假令ハ「イオニヤ」、下部伊太利ノ「コロトシ」、亞非利加ノ「キレーネ」ニ於ケルカ如シ、而シテ上ニ學ケタル「イオニア」學流ノ哲學者ハ多少當時醫學ノ發達ニ關セサルハナシ殊ニ「アナクサゴラス」ハ「エムベドクレス」ノ如キハ蓋世ノ學者トス

Anaxagoras ハ「クラツォメナ」(小アジア?)ノ人ニシテ西紀前四百五十年ニ生レ「ペルシヤ」戰役ノ終ル頃希臘幾ニ來リ、「アテーネ」ニ居リ徒ヲ集メテ學ヲ講ス、其風ヲ慕ヒ門下ニ集マルモノ甚多ク、有名ナル「ペリクレス」(上ニ出ツ)ノ如キモ又其教ヲ受ケシト云フ、後「ペリクレス」ノ政敵等ノ爲メ冤罪ヲ負ヒ、遂ニ「アテーネ」ヲ逐ハレ流浪中「ランプサクス」ト云フ所ニ於テ客死セリト云フ、其學說ニ曰ク天地萬物皆甚々微細ナル元子ヨリ成リ、元子ハ無限ニシテ皆其性質ヲ異ニシ、別ニ宇宙ノ間ニ靈智ナルモノアリテ此元子ニ活動ヲ與ヘ以テ萬有ヲ生スト

Impedacles ハ「アナクサゴラス」ヨリ少シク前西紀前五百四年ヨリ四百三

十年間ノ人、「シ、リヤ」ノ名門ニ出テ哲學ヲ修メ政事ニ與カリ、從來貴族ノ壓制甚シキヲ以テ大ニ自由ヲ唱ヘテ之ヲ排セリ、後黨派ノ間ニ不和ヲ生シ失意ノ中ニ晩年ヲ終レリト云フ、或ハ「エトナ」ノ噴火口ニ投シテ自盡セリトモ云ヒ、或ハ風ニ乘シテ昇天セリトモ傳フ、此人ハ又詩ヲ善クシ文學ノ祖トモ稱セラル、其哲學ハ物理學生理學ヲ立脚地ト爲セルモノニシテ、既ニ迷路(内耳)ノ存在ヲ說ケリ、而シテ火水風土ノ四大説ハ此人ノ立テタルモノナリ、則曰萬有ハ火水風土ノ四大ヨリ成リ之レニ愛憎ノ二原力働ラキ離合變化ヲ生スルニ由リテ宇宙ハ成立スルモノナリト(上二件百科學典拔萃)此地尙ホ「イオニヤ」派ノ學者ニ記スヘキ人々ハ、「Diogenes」(「アポロ」)「アポロ」出身ニシテ西紀前四百五十年ニ生ル、Alkmaeon (「プロトン」)ノ人西紀前五百年ニ生ル)アリ、前者ハ血管ヲ說キ、後者ハ「ヒタゴラス」ノ高弟ニシテ其功績ハ當時諸所ニ散見シタル解剖學上ノ事實ヲ治ク蒐集シ論評ヲ加ヘテ之レヲ後世ニ傳ヘタルニアリ

已上列記セル諸家ハ解剖學ノ創造者トモ云フヘク、創業ノ困難ヲ排シテ本文第一段ノ根底ヲ築キタルハ洵ニ偉大ナル功績トシテ敬慕セサルベカラス、然レトモ未タ何等ノ秩序モナク只事實ヲ陳列シ之レニ多少ノ考按ヲ附シタルニ過キス、學乃チ態ヲナサス、故ニ茲ニ至ルマテチ人呼デ解剖學ノ前驅期トナス、而シテ初メテ之レヲ眞性學體ニ改造シタルハ實ニ古今ヲ通シ學界ノ大偉人トシテ今吾人カ崇拜措カサル處ノ「アリストテレス」其人ナリ

Aristoteles 又「アレストートル」ト呼フ、「マケドニヤ」ノ一小邑「スタギラ」ニ生ル在世西紀前三百八十一年乃至三百二十二年ナリ、父チ「ニコマツグス」ト稱シ有名ナル醫師ニシテ「マケドニヤ」王室ノ侍醫タリ、「アレストテレス」ハ十七歳ニシテ父ノ膝下ヲ辭シ「アテーネ」ニ趣キ哲學ノ大家「プラトン」ニ師事スルコト二十年、「プラトン」ノ歿後去テ「アタルホウス」ニ移リ、後幾ハクモナク父ノ緣故ヲ以テ時ノ「マケドニヤ」王「フィリッポ」ニ

聘セラレ王世子歷山大王ノ師傳ニ舉ケラル、是ヨリ威望日ニ加ハリ自家ノ研究上亦タ多大ノ便宜ヲ得、專ラ自然科學ヲ根據トシテ哲理ヲ研究シ、識見深廣當時ノ學說ニシテ殆ント窺ヒ知ラサルモノナク、遂ニ空前絶後ノ宏大ナル哲學系統ヲ組織スルニ至レリ、斯クテ歷山大王ノ東征ニ上ホルニ及テ、更ニ亡師ノ居所ニ移リ多クノ徒弟ヲ集メテ講演ニ從事セシカ、大王ノ歿後不幸ニシテ聽者ノ爲メニ卻ケラレ、流浪中「エンボイア」(「ギリシヤ」東岸ノ最大島)ノ一小邑「カルシス」ニ於テ客死ス于時齡六十三

「アレストテレス」ハ「プラトン」ノ立說ト「デモクリトス」ノ學說ヲ統一シ別ニ一家ノ見ヲ立テ乃チ萬有一元論ヲ首唱セリ其說ニ曰ク奈何ナルモノヲトリテ之レヲ觀ルモ何等カノ素質ヨリ成リ何等カノ形相ヲ具ヘザルハナシ形相ナキ素質ハアレトモナキト同シ形相ハ素質ヲシテ有實ナラシムル所以ノモノナリ「プラトン」ノ謂ユル物質ハ此素質ニシテ其謂ハユル「イデア」ハ則チ形相ニ外ナラズ素質カ形相ヲ得ルニ由リテ漸次ニ發顯シ漸次ニ活動シ來ルモノ之レヲ現象界ト爲ス去レハ現象界ニハ永遠不絶ノ進化行ハル形相ハ則チ本體ナリサレド「プラトン」カ說ケルガ如キ靜的ノ實在ニアラス則チ現象界ニ於ケル進化發展ノ泉源ニシテ之レヲ永遠ノ勢力ト稱スヘシ而シテ素質ナルモノモ自ラ活動力ヲ具スルニアラザレト形相ト結合シテ進化發展ヲ起コシ來ルヘキ性質ヲ豫メ具セルカ故ニ之レヲ潛勢力ト稱シテ可ナリ去レハ形相ト素質ハ之レヲ別個ノモノト看做スチ要セス一ハ現勢ナリ一ハ潛勢ナリ其根本性質ニ於テ敢テ殊別ヲ立ツルニ及ハスト云フベシ云々

而シテ此學說ハ四項ニ區別サル曰論理學曰形而上學曰物理學(此内ニ天文動物學生理學心理學ニ屬スベキ研究ヲ多ク含メリ)曰倫理學是ナリ又自然科學ニ關シテハ創造論動物分賦論動物進化論動物起源論ノ四篇アリ(已上百科學典拔萃)

「アリストテレス」ノ著書ハ諸學科ニ涉リ極メテ多シト雖トモ、紛亂散逸セ

ルモノ亦タ甚タ多ク、而シテ事實ノ多クハ辛ク前世紀ノ半ハニ至リテ知ラ
レタルモノナリ、去レハ彼レカ高論早見ニシテ尙將來ニ發見セラル、モノ
蓋シ少ナカラサルベシ、今其動物分類法ヲ舉ケレハ則チ左ノ如シ

○有血動物 *Enaima* (今ノ脊椎動物)

1. 胎生四足 *Lebendig gebärende Vierfüssiger* (今ノ哺乳動物但シ鯨族ヲ除ク)
2. 禽類 *Vögel*
3. 卵生四足 *Bierlegende Vierfüssiger* (今ノ爬蟲及兩棲動物ニシテ無足ノ蛇類モ此内ニ含メル)
4. 魚類及鯨族 *Fisch und Walfische* (書ニ由リテ鯨族ヲ別目トシ有血動物ヲ五日ニ別カチタルモノアリ孰レカ眞乎)

○無血動物 *Anaima* (今ノ無脊椎動物)

5. *Molluska* (軟体類ナレトモ主トシテ頭足類則チ蛸烏賊ノ類チ云フ)
6. *Molluscorum = Vielfüßigscalthiere* (多足有甲類ト稱シ今ノ高等「クルスタセア」則チ蟹蝦ノ類)
7. *Entoma* (節足蟲、蜘蛛及蠕蟲)
8. *Strakodermata* (貝類)

已上ノ分類チ今日ノモノニ比スレハ素ヨリ徑庭ナキ能ハスト雖トモ、先ツ脊椎動物ト無脊椎ト大別シ、脊椎動物ノ綱目ニ至リテハ只僅カニ鯨族ヲ哺乳動物ヨリ除外シタルカ如キ小差アルモ之レ素ヨリ怪ムニ足ラス、然カモ海豹ノ如キ頗ル魚族ニ類似スルニモ抱ハラス既ニ哺乳類ニ加ヘタルカ如キハ千古不拔ノ卓見ト云フヘシ、故チ以テ之ヲ看レハ分類ノ注目ハ管ニ外相ノ見解ノミナラス深ク臟器ノ上ニモ觀察ヲ運ヒタルハ照々乎トシテ明カナリ、加之ノミナラス魚類ノ鱗片ヲ鳥ノ羽毛ニ比シ魚鱗ト獸肢ノ同價ナルチ説キ即チ既ニ「ホモロギヤ」ノ意義ヲ解シ比較解剖學ノ體面亦タ大ニ備ハレルモノト云フヘシ

人體解剖ニ關スル彼レカ識見ハ、心臟ノ構造ニ就テ其大要ヲ知り、其血脉トノ連結セルヲ説キ、神經ヲ髓等ヨリ鑑別シ、竟ニ身体部分チ同一部 (*Gleichartige*) 不同一部 (*Ungleichartige*) ニ區別シ以テ組織學ノ觀念ヲ示セリ、則チ同一部トハ血液、粘液、纖維、筋、硬骨及軟骨ノ如キチ云ヒ、假令ハ筋肉ハ幾片ニ之レヲ分カツモ筋肉タルヲ失ハス、不同一部ハ異種ノ同一部ヨリ構成セルモノナク云ヒ、假令ハ手足ノ如キ則是ニシテ一手ヲ割キテ二手ヲ得ル能ハサルカ如シ

「アリストテレス」ト殆ント同時代ニ於テ碩學「プラクサゴラス」アリ、此人ハ前三百五十年「コス」島ニ生レ、其解剖學ニ關スルモノハ高弟「ヘロフィールス」ト共ニ大ニ血管ニ就テ研究シ、竟ニ動脈ト靜脈ヲ區別セシニアリ、「ヘロフィールス」ハ後「アレキサンドリヤ」ニ移リ更ニ大ニ活動ス

既ニシテ歷山大王歿ス(西紀前三百二十三年齡三十二)、當時埃及王「プトレモイス」一世ハ頗ル學問ノ發達ニ志ヲ懷キ、前三百二十年ニ至リ「アレキサンドリヤ」ニ學堂ヲ設ケ、大ニ獎勵セルノ結果學者諸方ヨリ來リ漸ク隆昌ニ赴キ、其後「アレキサンドリヤ」ガ羅馬ノ治下ニ屬スルニ及ンデ益々隆盛ヲ致タシ、殊ニ哲學ノ研究最モ盛ニシテ一世チ風靡セリ、後世「アレキサンドリヤ」學派ト稱スルモノ乃チ是ナリ、而シテ解剖學ニ干與シテ名ヲ傳ヘタルハ先キノ「ヘロフィールス」ト「エラシストラトス」其人ナリ、*Herophilus* ハ前三百二年ニ生レ「プラクサゴラス」ノ薰陶ヲ受ケ動物學ニ從事シ且ツ腦髓末梢神經及五官器等ノ研究ニ貢獻少ナカラス、頭蓋内靜脈ノ一部ニ今尚ホ *Torcular Herophilii* (*Confluens Sinuum* 滄寶) ノ芳名ヲ留ム、*Ernstforatus* ハ「キョース」ノ出身ニシテ前二百八十年ニ歿セシ人ナリ、是亦タ動物學者ニシテ人體解剖ニ熟申シ、知覺神經ト運動神經ヲ鑑別セリ、而シテ此二人ハ「プトレモイス」王保護ノ下ニ犯罪人ノ生體及死體ニ就テ屢々實地研鑽ヲ爲シタルコトハ「セルシユス」ノ記錄ニ殘コレリト云フ此後解剖學ノ運動ハ暫ク睡眠ノ狀態ニ陥リ記スヘキ學者モナカリシガ、約

三百年ヲ經テ羅馬本土ニ一學者ヲ出タセリ、Aureus Celsus ト云ロ西紀前三十年ヨリ西紀後四十五年間ニ在セス、但シ此人ハ敢テ自ラ多ク新發見ヲ爲シタルニアラサルモ、從來ノ記錄ヲ諸方ヨリ蒐集シ之レカ批評考証ヲ爲シテ先哲ノ事業ヲ後世ニ紹介セル功績ハ、彼ノ「アルクメオン」ノ其レトモニ、實ニ鮮少ニアラストス

爾後更ニ一世紀ヲ降リテ Claudius Galenus 又羅馬ニ顯ハル、此人ハ紀元一百三十一年ヨリ二百一年ノ生存者ナリ、父ハ建築學者ニシテ「ニコン」ト稱シ「ベルカモス」ニ住「ス」ガレヌスハ初メ「アレキサンドリヤ」ニ於テ哲學ヲ修メ、次テ鄉里ノ醫學校ニ入り醫學ヲ學ヒ殊ニ「サチロス」ニ就テ解剖學ニ熱中シ、後チ更ニ「アレキサントリア」ニ赴キ學業卒ヘタル後、再ヒ鄉里ニ戻リ百六十年マテ醫業ニ從事シ、是ヨリ羅馬ニ移リ以テ永住地ト爲セリ「ガレヌス」ノ著書ハ約三百種モアリテ其過半ハ醫學ニ關スルモノトス、但人体解剖ヲ自ラ行ヒタルハ極メテ少數ナルカ如シト雖トモ、獸類殊ニ人体ニ類似スルノ故チ以テ主トシテ猿猴類ヲ割キテ熱心ニ研究シ多大ノ新事實ヲ發見セリ、去レハ人體ニ關シテハ專ラ先輩ノ記錄ニ據リ参照シタルニ過キサルカ如シ、故ニ人體解剖學トシテノ著書中過誤ノ少ナカラサリシハ復止ムチ得サルコトトス、之レ所用ノ研究材料ハ上記ノ如ク獸類ヲ以テセルト、先輩ノ記錄ハ相傳ノ間ニ次第ニ錯誤ヲ生シタルニ因セシハアラス（蓋シ十三世紀ニ至リテ初メテ印行ノ術アリ、是ヨリ先キ記錄ハ皆手記ニ由リテ傳ヘタルモノナレハ誤寫錯雜ヲ生シタルハ正サニ其所ナリ、彼ノDura Mater ノ「ペーテル」ノ如キハ母神ノ義ナルモ費用ノ久シキ竟ニ腦膜Meninge ノ代用トナレリ、之レ手記ノ勞ヲ成ルヘク省カンガ爲メ頭一二字ヲ取リテ畧字トセルカ故ニ、翻譯ノ際餘字ニ轉化セシモノナラント云フ）去レト深ク世ノ信用ヲ博シタルカ爲メ、「ガレヌス」ノ遺書ハ醫界ノ神聖トシテ尊重サレ、爾來約千三百年ノ間洽ク世ニ行ハレ、十六世紀ニ至リ絶世ノ解剖學者「ウィサリウス」ノ苦心ニ由リ初メテ其誤錯タルコトカ發見セラ

レタルナリ

「ガレヌス」ノ研究セル事項ハ主トシテ神經系統ニアリ、脊髓神經ヲ部位ニ由リテ區別シ、腦神經ノ類別ヲ首唱シ之レヲ Opticus, Oculomotorius nudi Abducens, Trigemini, Palatinus et facialis, Vagusgruppe, Hypoglossus ノ六種トシ、尙嗅神經ハ腦ノ一部タルコトヲ説ケリ、又他ノ部分ニ於テモ研究少ナシトセス、就中動脈ハ空氣ヲ交ヘタル血液ヲ配布スルコトヲ看破セルカ如キハ卓見ト言ハサルベカラス（但シ血液循環ノ事ハ達力其後十七世紀ノ初頃英人「ウィリアム、ハーウエー」ノ發見ナリ）而シテ Vena magna Galeni ノ名ハ今尙總内腦靜脈ノ別名トシテ遺コレコトハ人々ノ知悉スル所ナリ、又實地醫學ノ必要上ヨリ研究スル解剖學ヲ Anatomia foruita ト名ケタルモ此人ナリ、蓋シ此人ノ研究ハ專ラ此必要ニ促カサレタルカ如シ（局處解剖學ノ嚆矢）由來當時ノ羅馬ハ實地醫學ノ隆盛ヲ極メ、既ニ内科外科產科婦人科眼科耳科齒科等殆ント身体ノ各部ヲ専門ニ分カチタルノミナラス、尙ホ癰管治療ノ專門家アリ、脱腸、結石ノ手術ヲ專業トセルモノアリ、只其レノミナラス小兒科ニ對シ老人科ノ區別サヘ設ケラレタリ、故ニ解剖學ノ研究モ是等實地醫療ノ必要ニ促カサレタルヤ必セリ是ヨリ幾ハクモナク歐洲ノ大舞臺ハ一轉シテ戰國ト化シ、斯クマテ進歩セル學問ハ文明ト共ニ途ニ全ク終息シ、古代解剖學ノ歴史ハ即チ茲ニ畢リテ告ケタリ



通信

●市村氏通信 (林常雄氏宛)

益々御清適の段慶賀候生義去月十一日横濱出帆「シャートル」經由本月二日無事致着仕候當分此地に在つて目的に向ふの準備中に有之候在郷中は不一方御厚遇を辱し奉謝候猶將來不相變御厚誼を奉祈候當地季候溫暖如春易凌候右不取敢御挨拶迄詳細次便時下御自愛專一奉祈候

全氏の宿所は次の如し

O. Ichimura

315 E. First Street,

Los Angeles, California,

U. S. A.

●李廷權君通信 (醫科四年級宛)

拜啓久しく御無音致し候處洵に失敬致し候吾國の改革に付きては新聞に依り諸君の已に承知致し候と推知致候小生早速歸澤致し日々吾級共に筆記を忙碌致可く候へとも會の後處置に付き小生の外出を許さざるを以て暫く歸澤延期致し候然れども諸君の卒業式兼て送別に必ず列席可有候勿々(中華民國南京下關和豐里中國紅十字會臨時病院内)

●京都同窓會通信

山に飄單下げて松茸狩、市に蘆芥吸ふ時代祭行列ありし十月二十二日の日曜在西京同窓は加茂の邊、名も共樂館に共樂の宴を張り候定刻着服厳しく紳士然たるも顔貌將亦精神も依然學生時代に變はらざる諸兄十名集合致され候即ち下阪、橋本、池田、岡島、鴨脚、内田、山田、増井、大原、名取の諸氏にて談は金澤に移り醫談に移り、酔ふて午後十時解散いたし候
新入同窓は左の如くに御座候

池田耕氏(陸軍一等軍醫)大分衛皮病院附の氏は療病の爲め上落せられ當地に旁々開業せらるゝ由

下阪雄太郎氏は大々兄にして堀川佛光寺南入に開業せらる

山田茂樹氏は騎兵第二十二聯隊附にて伏見に住居せらる

増井榮太郎氏は京大皮膚科に研學中

杉山爲雄氏は下阪氏と同じく同窓の兄にして當地に於ける外科病院とて名聲噴々たる新町御池北入の杉山病院の院長なり

安澤綱三氏は蘇屋町六角南入華島外科病院に奉職せらる

異動せらる同窓は左の如くに候

中西内科に介補たりし清水義成氏(居所不明會員)は故里、江州高島郡今津町に於て本年四月開業せらる

久保襄一郎氏は何れにか轉ぜらる

附記水口順氏(居所不明會員)は京都府綾喜郡有智鄉村字内里に開業せられ此回の會合に案内申候處多忙の爲め欠席せられたるは遺憾なりき

其他の同窓は従前の通りにて皆壯健に發展いたし居り是に恩師及母校の同窓諸氏舊都を探る折御叩門被下様申し居られ候

●京都會員通信

三月四日夜

京都にて 一會員

謹啓母校を出て申して以來今日迄の御無音御海容の程一重に願上候今日迄故里に遊び居りながら只一片の御伺ひも仕らず候段一層の罪重き事に候

先月上洛仕り目下本院婦人科に見學仕り居り候一昨日國より十全會雜誌送附致し呉れ申し母校恩師諸先輩友人等の御動靜を知り申なつかしさに絶へず候先づ諸先生御壯健母校の爲め御盡力感謝の至りに絶へず候

母校在學中は左程にも思はざりし事も今日に至りては金澤醫專に聞けば誠になつかしく先日日本大學講習會に御出席の先輩諸兄と十全會京都支部會を催され申候皆大抵は知らぬ方許りに候ひしかど一見知己の如く和氣霽々の内に解散仕り候此事は幹事諸兄より御通知の事と存候

目下大學には解剖に岡島兄耳鼻科に内田兄法醫教室に名取兄御研學にて皆昨々たるものに候

四十四年度卒業生は内科に富永、楠西、橋本諸兄婦人科に小生一人に候三兄は共に獨語も上手なり頭腦も明晰に候へども小生の如き學校にて放逸に暮し候者は今日實に獨乙語に苦しめられ申候已往症等にて僅かの事に失笑を招き居り候

金澤にても可成已往症位原語又は成る可く原語交に取る様致され度願上候婦人科見學は京都醫專出三人熊本出二人名古屋出一人金澤出にては小生尙介輔には岡山出二人長崎出一人に候

患者は官費患者に於て「ネーベン」として與へられ候も自由にする事難く候へども御産の方隨分澤山見學致す事に候大抵日に一二人は有之便宜を得申す可く候

小生只今に至りて思ひ候母校の病院に居て先生達の御指導に預り後大學等の見學は大なる効ある事と心得申候學校出るなりには誠に氣持悪しく取り付當もなき有様に途方に失れ申候

●中川善松氏通信 (山本直枝氏宛)

四十一年度卒業陸軍醫目下朝鮮忠清南道公州守備隊附なり拜啓時下初春の候と相成候處貴兄には其後如何御消日被遊候設定めて此頃は「ミクロトーム」と顯微鏡との組打と存候小生は此頃は劍一本ふらさけ不相變朝鮮の山野を跋渉致し居り候到る處人家稀なる所にして地圖上の附號に依れば道驛の所在地にて少くとも三四万の人口ある都會と思ふて行けば金石程の町にて葦屋根のチヨコマン(小なき意家計りなれば其淋しき限なし唯驚く程居るは雁鴨雄のみに御座候

小生の居る公州は忠清南道の首府にして道廳あり地方裁判所あり監獄あり内地人も千五百人程居る處にして表通りは全く日本人の商店のみ十二三軒支那人の店も御座候朝鮮人に話をするに吾等日本人は何々云ふと不快な顔を致す者多く有之候彼等は吾等の事を日本人と云はず内地人と云ひ居り候如何と云ふれば朝鮮人も日本人の一部なりと云ふ考にて日本人と朝鮮人と區別して云ふと一寸彼等は心地悪しく感ずる様に思はれ候此思想は誠に喜しき現象と存候即ち韓國人と云はるゝより日本人と云はるゝ方を名譽とする様に御座候但し之は日本語否内地語の話せる教育ある者のみに御座候てまたく安心と云ふ所には至るまじと存候

擬て前便にも申上候通り當地は氣候は實に佳良にして風景も亦實によく東西南北山にして北は錦江に接し錦江の岸には公州城あり

一度公州山城に昇り洪北樓月波樓に昇れば眼下に錦江の清流ありて白衣の鮮人船を竿すあり白帆に鴨群の追はれて飛ふあり實に面白し樓上に韓國の大宮の樓に昇るの記を板に刻して額とされるもの數十枚あり三井寺より琵琶湖を望むよりも石山の景よりも又嘗て秀吉が東山の月と宇治川の月と並

公許せられたる者は蘭領東印度に於ても其の職業に従事する事を許す

第十六條 蘭領東印度に於て特定の試験に及第せるものも、亦た醫師、

齒科醫及産婆として其の職業に従事する事を許す

右の原則以外に一の例外を置き、即ち獨乙の大學卒業生には無試験開業を許可せる事なり。こは蘭獨兩國間に醫師互惠條約を締結せる爲めにして現に獨乙ライプツヒ大學卒業者にして同領土の軍醫又は公醫に採用せられ居るものありといふ。併し互惠條約は目下の處、獨乙のみにて其他の歐洲各國は此惠に浴し居らず、若し開業せんとする時は必ず此地の試験を受けざる可らざるなり。而して其開業試験規則の條項並に齒科醫藥劑師産婆試験規則等は左の如くなり云ふ。

●●●●● 普通醫師試験

第十七條 醫師開業試験を受けんとする者は治療及處方箋の調製に就き十分なる智識及技能を有せざる可からず。其實地試験を分つて内外科及産科の二種とす。内外科試験を受けんとするものは、蘭本國又は蘭領東印度に於て公許せられたる醫師に付き少なくとも二ヶ年間、實地の練習を積みたる事實の證明書を添附提出するを要し、産科は免狀を有する産婆又は産科醫監督の許に少くも普通の出産十回、重態の出産二回に立會ひたる證明書を添附するを要し、且つ内外科試験に及第せる者に非れば産科試験を受けることを得ず。

第十八條 前條の試験を受くべき有資格者は左の如し。

一、一八七（六年四月二十八日付本國發令法律第一〇二號第九十四條の規定により指定せられたる高等教育を受けたもの又は之と同等の資格あるもの。

二、本會より第十九條第二十條及第二十一條の試験に及第せる者。

第十九條 第一項 生理學試験科目は左の如し。

第一、物理學 第二、化學 第三、本草學

本試験を受けんとするものは

一、Gymnasium School（當パタビヤにある最高程度の中學）に於て六年級を修業せる修業證書（我が高等學校全科卒業程度より學力稍や低きも尙ほ本國にある大學と連鎖を有する學校）又は之れに相當する學校の卒業證書を有する者。

二、High - Burger School 五ヶ年級の A 卒業證書所有者。

第二十條 第二項生理學試験科目は左の如し。

第一、解剖學 第二、生理學及組織學
第三、藥物學

第二十一條 醫學上の學術試験科目は左の如し。

第一、醫治的解剖學 (Therapeutic anatomy)

第二、藥物學 第三、病理學及療治學

第四、衛生學 第五、外科學 (理論)

第六、産科學

第二十二條 試験を免除すべき場合は左の如し。

一、醫術開業者の候補者たることを得べき資格證明書を提出せる者は第十九條に規定せる第一項生理學試験を免除す。

二、蘭本國にある大學より醫師の候補者たるを得べき證明を受領せる者は第十九條及第二十條の試験を免除す。

本法に規定せる開業試験を受けるに於ては他の外國に於ては醫師の開業を爲し得る資格を有する者は本法第十九條、第二十條、第十七條第三項に規定せる試験證明書の提出方を免除す。

●●●●● 齒科醫試験

第二十三條 齒科醫を開業せんとする者に課すべき實地試験に齒の組織及齒に關する學術的智識を填充及擬齒製作又は如上に關する實際の技能を審査するものとす。

第二十四條 齒科醫實地試驗科目は左の如し。

第一、齒の解剖學及填充用原料と生齒との學理的配合

第二、齒の部分に關する生理學

第三、同上衛生學療法學及齒疾と連鎖を有する口中疾患療法

第四、處方箋の調製即ち藥物の配合左に記載せるものは前項に規定せる第一、及第二の試験科目を課せず。

一、本國にある大學に於て醫學士の資格を受くるに至らざるも尙ほ最終の學年試験に及第せる者又は齒科に關し一八七六年四月二十八日發布の本國法第一一九條に依り之れと同一の資格ありと認められたる者。

二、本令第二十條に規定しある第二項生理學試験に及第したるか又は之と同一の資格あるもの。

第二十五條 前條に規定せる學術的試験を省略する有資格者は蘭本國の大學に於て其試験に及第せる證書を有する者に限る。

第二十六條 藥劑師の實地試験を受けんとするものは藥舖及其の實地室に於て藥物學及化學的分析に關し實地の經驗を有すと認むるものならざる可からず、前項の試験を受けんとするものは蘭本國又は蘭領東印度に於て公許を受けたる藥舖より同店藥劑師監督の許に少くも二ヶ年間實地の練習を積みたる證明書を提出することゝを要す。

第二十七條 藥劑師の實地試験を受くる者は左の資格あるものに限る。

一、一八七六年四月二十八日附本國法第九十六條に規定せる者又は同法令に依り之れに相當すと認められたる者。

二、本令第二十八條に規定せる學術試験に及第せるもの。

第二十八條 藥劑師開業受験者に課する學術試験科目左の如し。

第一、調劑術 第二、毒物學 第三、分析化學

第二十九條 第二十八條に規定せる藥劑師學術試験を免除するものは蘭

本國大學に於て之れに該當する學科を修了せる修學證書を提出する者に限る。

第三十條 藥劑師學術試験を受くべき有資格者は本令第十九條に規定せる第一項生理學試験に及第せるもの又は之れに相當すと認められたる者にして動物學及礦物學の概要に通ずる者。

藥劑師見習試験

第三十一條 藥劑師の見習として實習せんとする者には學術試験と實地試験とを併課す本試験は十八歳以上の者にして處方箋を調製するに十分の智識技能を有する者に限り之を行ふ本試験を受けんとする者は蘭本國又は蘭領東印度にある藥劑師に付き二ヶ年以上實地經驗の證明書を提出せざるべからず。

第三十二條 產婆開業に關する實地試験は學術試験と共に之れを其の受験者に併課す、本試験を受けんとするものは蘭本國又は蘭領東印度に於て產婆見習として登録せられたる者にして少くも十回免許狀を有する產婆監督の下に普通の出産に立會ひたる經驗を有せざるべからず。

產婆試験

第三十三條 產婆見習として登録する手續法は教務殖產部長官之れを定む。

通則

第三十四條 本會に規定せる前記各種の試験は無手数料とす。

前項の試験は公開す但し臨床及化學的實驗は試験委員長の特許を受くるを要す。

第三十五條 本令第十七條第二十三條及第二十六條の試験に及第せる者には證書を授與し其の資格を左の如くに定む。

一、醫師第十七條に規定せる試験に及第せる者

二、齒科醫第二十條に規定せる試験に及第せるもの。

三、藥劑師第二十六條に規定せる試験に及第せるもの。

第三十六條 藥劑師の見習及産婆試験に及第せるものは證明書を交附す。

第三十七條 醫師齒科醫、藥劑師、産婆、及藥劑師見習の試験に及第せるものは試験委員長に對し左の宣誓をなすべし。

法令の規定を遵守し正實に職務の執行をなし且つ職務上當然知得せる患者の秘密は裁判所の命令により證言し又は通告を要する場合の外何人にも口外せざることを宣誓す。

宣誓を終れば試験委員長は其の宣誓書を教務殖産部長官に送附す。

第三十八條 本令規定の試験は少くも毎年二回施行し其の施行に關する細則は教務殖産部長官之を定む。

第三十九條 土人醫師、産婆、種痘吏の有する特權及義務は教務殖産部長官之れを定む。

尙ほ開業受験用語は、蘭國語たるを要せず、何國語にても可なり、通譯を介して應試し得る規定なれば、本邦人に取りても極めて便利なる如きも、不幸にして此地方には適當の通譯者なく、其爲め及第し得ざるものもあり、現に數年前本邦開業免狀を所有せる市川直太郎といふ醫師がバタバヤに渡航して開業試験を受けたるが、氏は多少英語に通ぜるも素養十分ならざるより通譯に依頼せしに通譯者が醫學上の術語に通ぜざりし爲め、市川氏も病名病理等の原語に精通せざりし爲めに前後二回受験せしに終に及第するを得ざりしといふ故に若し十分に歐洲語に通ずるが少くも學術上の原語だけになりと精通せる本邦醫師が渡航して受験せんには及第は餘り困難ならざるべしといふ又た現行の規定に依るに、土人間普通の疾患に對する賣藥及投劑は、開業醫免狀を有せざるものにも之れを爲すことを許せり。之れ畢竟するに住民の智能未だ歐米人の如くならず、彼等は今以て洋式醫藥を用ひず、祖先傳來の草根木皮を組合はせ、種々の疾患を救治すること

を好むを以て、是等變體の藥舖及調劑者の存在を認むること、尙ほ本邦に於て漢法醫及漢法藥店の存在及投劑を認許しつゝあるが如き者なり、從て是等の賣藥及投劑者は、歐米人及其對等者(日本人は此内に包含せらる)に對し、公然診斷投劑する事を許されざるも、土人及對等者に對する投劑は公認せられ、其診斷も亦た默認の姿なるを以て、目下此地方にある本邦開業醫は、普通の爪哇醫支那醫(我が所調漢法醫)と相伍し、専ら土人及支那人等を相手とし、其營業を繼續し居りて、甚だ遺憾の次第なるも歐洲語の素養不充分にして、受験するも及第の望みなき爲、不得已此の不名譽に忍び居れるなりと。又た該地方一般に正式の醫師及藥店と土人及對等者相手の同業者は、左の稱呼を以て馬來語にて區別し居る由。

正式開業醫

Ilo

正式藥劑師店舖

Toko obat (藥店の義)

特種醫師

Tolong obat (調劑師の義)

藥舖

Roma obat (藥種屋)

之れを要するに本邦開業試験に依り開業醫免狀を有する者は、外國語の素養少なきと、該地方にては、醫學上の術語に通ずる適當なる通譯者を得ること能はざれば當領政府制定の開業醫試験に應ずること困難なるべきも、帝國大學を卒業せる、醫師及外國語の素養ある人士の受験には、左したる困難なるべく、又目下當領土にある醫師は爪哇島を除くの外、其數甚だ少く遠隔諸島に於ては賣藥又は地方官の供給する藥品にて一時の急を凌ぐの實況なれば、今後日蘭兩國間に獨逸の如く相互無試験にて開業の特典を與ふるが如き制度を實行し得るに於ては、年々當地方に増加しつゝある本邦移民の受くる直接の便益大なるべしと云ふ。

領事の報告既に如斯、堂々たる本邦の開業免狀所有者が土人醫師と伍する如きは不名譽の極なり、而して本邦移民は該地方に向つて續々増加しつゝある今日、當局者は互惠條約締結に力を致さん事を望むと共に、本邦の醫

師も亦宜く語學を修めて是等新しき地方に發展の策を講ぜん事を希望す。

●獨逸留學者の便利

(伯林のホエツチンク學院)

世界の學府を以て任ぜる獨逸帝國は年々各國留學生の送迎に忙はしく、殊に近時諸邦國よりの留學生著しく増加し各階級に於ける覺悟には必ず異邦留學生を數ふるを見るに、彬々たる獨逸文運の隆盛を望すべきなり。伯林の教育者は茲に鑑み獨逸外國人殊に留學生の爲めに獨逸語を習熟せしめ以て獨逸文化の概要を知得せしめん事を企圖せられ、客年十月首都伯林市西北ウニベルジテート街八番地ホエツチンク學院に於て如上の目的を遂行せん爲め獨逸語講習會を開設せらるゝに至れり、これにより從來各國よりの留學生が最も苦痛に感ぜし獨逸語學を其の留學地に於て講習し得べく、各國留學生は斯學を喜び競ふて入會するの盛況を呈せりといふ。今同會主意書の梗概を示し將來本邦より彼地へ留學する人々の參考に供せん、則ち

一、本講習會は本年に於て一月八日、五月十三日及十月二十一日より各々八週間に亘る講習會及四月十一日より五月八日に至る並に七月八月に於ける各四週間の休暇講習會を設置す。一月八日より三月三日に至る講習會に於てはゲーテ、及シルレル作劇、獨逸近世の神史現今の獨逸國(經濟史的及經濟地理的)獨逸生活狀態一斑、獨逸聯邦の諸制度、近世獨逸文學の哲學上の基礎、等に付き講習、及び獨逸詩文の朗讀練習を行ふ。

一、各講習會に於ては獨逸文學及び文化の範圍に屬する講義の外獨逸語の口頭及筆記上の運用實習を小部分に分ち講義すべく、而して在留外國人は有利なる案内を受け伯林及其の郊外の主なる參考參觀所、獨逸

公共の社交狀態等を觀察するを得。

一、七八月に於ける休暇講習會に於ては教育界より知名人士の講演あり、教育學に干する講義あり、講習會へ入會せし者には證明書を附與し又入會者は試験を経て證書を受くるを得。

一、八週間の講習に對する授業料は百十「マーク」四週間の休暇講習に對する授業料は七十「マーク」とす。

一、在獨外國人は男女年齢を問はず、其の教育程度を適當と認められたる場合は何人も入會を許さるべし、卒業證書、旅行免狀、身分證明書等は入會に際し提示すべし。

一、本會に關する照會は(前記)學院事務所宛申込まるべし、規則書は無料送付すべし。

一、入會人員に定限あり、講習開始十四日前に申込みべし。

休暇講習會は申込者定員に達せざれば開會せず。

同學院管理者は普國教育部省代表者、現伯林大學總長プロフエツツル、ドクトル、マクス、レンツ。伯林大學教授エーリヒ、シミツト。ヘルマン、ザールス。アロイス、ブランドル等にして、教員は院長プロフエツツル、ドクトル、ウキルヘルム。パスコフスキ及伯林大學諸講師及諸高等學校教授諸氏擔任の由往年本邦に清國留學生が俄かに入込みたるに際し如何はしき日語教授の私塾が亂出し、識者の驚愕を買ひたるの比にあらざるべきを信ず。學を獨逸に志すの士は宜しく是により一層獨逸學界の精華を吸收すべきなり。

●獨逸の病院數

最近同國衛生局の報告によれば現在病院數約七千五百あり、而して同局の報告には年々五十萬乃至七十萬の患者は右の病院に於て治療を受くるもの

にして、右の外約千の治療所と私立醫院ありて、是等に於ても年々五萬の病者を治療す、而して是等の病院に於ける病類別及び其増減の割合は左の如くにして、最近著しく其の數を減少したるものより示せば（千人に就ての比例）

病名	年	年
▲天然痘	一八七七—一九〇七	一九〇五—〇七
▲丹毒	〇、七六	〇、一四
▲瘰癧	八、二四	四、六八
▲瘰癧及胃性熱	三八、四七	七、七六
▲發疹瘰癧	四、六二	〇、〇二
▲マラリヤ	一〇、七八	〇、五四
▲先天及び後天敵毒	五〇、九八	一九、八九
▲赤痢	一、三八	〇、二九
▲吸呼器病	一二三、九七	七七、三四
▲外皮病	二一七、九七	九九、〇九
之れに反し最近増加したるものは		
病名	年	年
▲猩紅熱	一八七七—一九〇七	一九〇五—〇七
▲瘰癧及び紅疹	三、三〇	八、四九
▲實扶皆里、「コロア」	一、九二	三、五五
▲インフルエンザ	九、四二	一三、一八
▲結核及び肺癆	三八、〇一	一五、三一
▲惡性腫瘍	一三、六六	〇、一四
▲糖尿病	〇、四三	二、三六
▲神經系統病	四四、三八	二、三五
		五九、二四

▲循環器病	一二三、三六	一二六、五八
▲尿器及び生殖器官	三一、一六	六三、三一
▲筋肉及び腱病	一三、三八	三六、二八
▲機械的外傷	一〇八、四四	一三一、四九

尙出産と死亡との割合は左の如し

年	出生者	死亡者(死産者を含む)
一九〇〇	三六、八	二二、二
一九〇一	三六、九	二一、八
一九〇二	三六、二	二〇、六
一九〇三	三四、九	二一、一
一九〇四	一五、二	二〇、七
一九〇五	三四、〇	二〇、八
一九〇六	三四、一	一九、二
一九〇七	三三、二	一九、〇
一九〇八	三三、〇	一九、〇
一九〇九	三一、九	一九、一

即出産者の比例漸次減少しつゝあり、若し此狀態にて漸次進行せば國民増加の率は益々減少すべし



内地雜報

●醫師の増減

昨年一月以來去十一月末日迄に醫師となりし者の數は

各 醫 專 校 卒 業 者	千葉百〇壹名、仙臺八十 九名、岡山八十九名、金澤 百二名、長崎九十四名、 大阪八十六名、京都百十 二名、慈惠百二名、愛知十 二名、熊本八十五名	九百七十名
---------------------------------	--	-------

東京醫科大學卒業者

百二十二名

福岡同上

五十五名

京都同上

八十一名

開業試験及第者(熊本に於ける第二回の及第者を除く) 四百二十四名

合計 千六百四十二名

なるに對し死亡・廢業・轉業等によりて醫籍より除去されし者の數は

合計 七百二十八名

なり、故に増加の減少に超過する事

實に 九百十四名

なりとす。而して去十一月迄に新たに登録を受けしものは、**壹千五百四十四名**なるを以て、實際開業執務せる新醫師の増加數は差引八百十六名なり

●全國公私立病院

從來全國の公私病院數及患者收容數等は明確ならざりしが、濟生會の事業を行ふに參考とすべく、内務省にて久しく調査なりしが、官立は六個、公立は特種のもの即ち癩病院、娼妓病院、傳染病院等を除き五十五個にして、私立病院數は四百十四個所なり。

收容患者數は最近三ヶ年の平均によりて、一ヶ年内に

公立病院入院者 壹萬三千二百二十九名

私立病院入院者 五萬七千八百五十名

外 來 六十二萬九千參百六名

にして、右の内にて施療患者は如何といふに、私立病院中にも多少の施療者を收容せる無きに非らざるも極めて少數にして殆んど言ふに足らず、公立病院に於ては一ヶ年二千四百二十九名を收容せるに過ぎず、故に此他に官立の六個病院が約參千名を收容せしを見るも、尙ほ一ヶ年全國を通じて施療患者として收容せらるゝもの五千餘名に過ぎざる次第にして五千萬人といふ本邦の總人口に比すれば千分一に過ぎずして實に驚く可き少數なり、故に彼の濟生會の如きは愈々以て病院を設立する必要を認め居るなりといふ。

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

校 内 雜 報

●講話會小會の記事 (三月二日)

北國の春も始つた空の色も水の色も一樣に霞んでゐる尾山の梅も咲いた荒んで枯れて居た野も青くなつた晴れた暖ぬ三月二日午後二時から濟々堂で待期してゐた會が開かれた

一、開會

佐々木清臣先生
鬼頭部長が手術中であつたので代つて溫健肥大の先生の姿は拍手に迎へられて開會を告げられた

一、校風

北村虎二君
國には國風校には校風がなければならぬ各自の一舉一動が校風を生むのだ互に戒め合つて真校風を上げた豪健质朴にやりたいと

一、生物學上の男女兩性

布施七一郎君
男と女を解剖上から生理上から論じ男は男の女は女らしくその本能に隨つて天真を守らねばならぬと

之に對し四年の楠田君は近時女らしい男男らしい女が出て來る傾向あるのは慨歎を追加せられた

神谷外見雄君

君は沈痛の態度力強い言葉で池邊三山先生の死を悲まれた曰く文章經國一世に冠絶し平淡瘦古の風あり惜むべし今や亡し噫々

一、烈風の教

増永辰治君

人は刺戟で生きるのだ烈しめ風は戦々々々吹いてゐる神の默示だ

一、校歌の制定

高橋邦夫君

人の心の琴線が何かに觸れると歌いたくなる小立野高台に新校舎もできた校には校の主義を歌つた歌がない豪健純清の校歌が惜しめほんさに傍聴子も「高台の上に嘯きて」「大なる理想夢に見て」、など歌ひたくなる

一、日本赤十字社の病院現況

伊藤哲一氏

本病院一ヶ年二十七萬圓の經費と十萬圓の補助で行く一大慈善病院で設備は東洋一だ勸任の院長副院長上長官の主幹士官の醫員將校待遇醫員下士相當の看護婦や同生徒で組成してゐる患者は殆んどフライド昨年から新に研究生が許されてある此は大學や外の慈善病院と異り吾々醫專出に非常な自由と公開がある院内は陸軍式で氣持がよい校を出られて一度研究せらるゝなら此所はよい余が在院中外科部での所感に病解病組の十分な智識が要する事だ語學の修養は勿論だよと

云はれる所軍人式テキハキ而も彼の君がから何せたまらぬ大きな印象を與へられた

一、赤痢病菌攜帶

中村欣一郎氏

本題は防疫學上「チフス」菌と少しも異らず重要視すべきに然らざるは如何と自己櫻木傳染病院實驗に學説を加はられて深く述べられた僕等前回の福岡先生の「チフス」菌攜帶と比べて興味わく様であつた深く謝さればならぬ

一、歐洲精神病界の狀況

松原先生

先生が立たれた期待のケジヒトが一樣に動く先生はかの有名な「シャルコ」や「ピチー」や「バビンスキー」「ホーヘ」や又「チグレル」「ウオルフ」の諸先生が居られた又居られる獨英佛の病院學校や精神病患者の取扱状態診察方法や昔の歴史を教壇で述べられる様「アルゲマイネ」「スペチエール」で述べられた

一、解剖學の歴史

金子先生

太古人間が食つたものが形や色が變つて出て来る身体の中に何かあるか云ふ疑ひから解剖せよ云ふ「カイク」を生じたそれから中世紀「ヒボクラテス」「アナキザボラス」「エンベトクラス」「ヂナゲニス」「ウイリヤムアーバー」「アリキメオ」「アスピリビアン」「ヒボ」「セシウス」など出て或は動物につき或は人に就き血管の發見や循環の原理發見や腦の説や惣括や動物發生や分類一家相傳説の發掘や昔の學者の苦心の結果今日の解剖學が出来たのだとパット中途で電氣がこもつた壇の上に我老博士が昔の解剖學の歴史を説かれてゐる深甚なサブライムの念ひしと身に追つたまだ先生側で下平先生の所感數則、山崎先生の滿鮮の醫事狀況視察談、高安校長の未定と生徒で五名も残つていたが時既に七時鬼頭部長は立ちて閉會の辭を述べられた外に出るさ星は燦爛として昔のまゝに輝くあゝ大なる默示深き謎語教へられ述べられた事實が廻り廻つて考られるさらばなつかしの十全會會員よ到る所幸あれ又の日に!!! (河口生妄言多謝)

●藥 二 級 會 (三月二日)

白い梅は笑つたが紅梅は未だ笑ひ兼ねて居る、柳の糸は萌黃色になり初めた、冬枯の稲落到に支配せられて居つた兼六公園も漸く蘇生し出した。醫專の一角。藥學の中堅に介在する藥學二年の級會は例の如く三月の月次會を去る二日の午後五時半から園内の奇觀亭に開會した、來賓としては級長脇坂教授、安藤副手、北陸新聞主筆梅田忍齋の諸氏であつた、前日から幹事は時間勵行を大に主にしただけある後る事定刻より二十分にして開會の辭となつた、絞切形の開會の辭が終ると引續いて左の演題の下に各々懸垂の辯を振はつた、

一、意 氣

一、藥學と旅行

堀 球 造

小 出 茂 雄

- 一、時期の利用
- 一、田金漢
- 一、茶代を忘る勿れ
- 一、入浴時間と藥浴
- 一、名句と藥學
- 一、六波羅と野川と
- 一、藥學の本領
- 一、人物たらんには
- 一、揮發油に就いて
- 一、池邊三山を惜む
- 一、蕪村と一茶の研究

の如き題下に約四時間餘に渡つて皆快輕なる辯を振はつた、次に級長の訓示的演説あり最後に來賓梅田氏の『將來世界に於ける日本の位置』と云ふ演題の下に一時半に餘る長講演をせられた、惜い事には時間が短い爲めに充分でなかつた事を悲む、が何れ再び或は聽き得る事もあらうか、

餘興に入りては高橋君のハーモニカ、宮崎君の尺八、竹内君の尺八の合奏(六段)渡邊君の彈琴(千鳥の曲)吉野君のバイオリン獨奏、長尾君の越後獅子、石野君の薩摩琵琶(櫻符)等あり續いて茶菓の饗應、そはの立食會あり最後に餘興滑稽クラス十二傑懸賞投票に移る、曰く大食漢は誰、曰く未來の女子藥學專門學校設立者、曰く過去に於ける美少年、曰く下戸黨の旗頭曰く何々々奇想大涯より來る的の案を提出して投票を求む、蓋し月次會に於ける餘興の大成功の一たりしは疑ふ所なしだ、

それより當選者の發表に至り山の如き多大なる賞品を授與し終りて各被當選者の辨明的演説に入る時正に十二時に垂れんとする時であつた、幹事の發聲の下に級會萬歳を三唱して散會した、(三月三日—N, T生)

神田 與 敬
宮田 白 雨
宮崎 博
石野 金 朔
武内 竹 卓
吉野 玉 泉
越智 苔 仙
和田 河 北
内藤 如 水
神谷 蛇 劍
塚田 浪 江

●第五回小立野俱樂部例會 (二月十八日)

吾人の進歩發達に三階梯あり第一無意識時代第二意識時代第三目的を意識する時代之れなり吾人は歩一歩第二時代より將に第三時代に進まんとするなり吾人の自覺は我俱樂部に對し愈々嚆望を大ならしむるものあり我俱樂部は茲に第二年を迎ひ更に大飛躍を試みんこし即ち本月十八日婦人科教室に例會を開くこ左の如し

一、開會の辭

一、醫師の人格

甲府市に起これる「不應往診事件」を捕へ來り縦横に意見を述べられ斯の如き法規の存在は社會が醫師の人格を疑ふが爲めなれば將來醫師たらんとする者は今より大に修養する所なかるべからずと論ぜらる

一、白米の營養價值

此研究は近年社會問題及醫事問題として既に學界に重視せらるゝ所にして邦人の如く米のみによりて生活する者は國家將來の運命に影響少なからずこし或は經濟上より「アルサス」の人口論を引證し或は醫學上より歐洲諸大家の實驗成績を示され終に糠の成分に就き現今の學說を紹介せらる

一、結核の療法

現今汎く行はるゝ該療法の種類を紹介せられ其各療法の得失を述べ終りに君が見聞せる開業醫として心得べき縞紗、器械等の消毒法を紹介せられたり

一、胃液中の發酵素定量法

發酵素中「ラップ」及「ペプシン」の定量法は其方法煩雜なるを時間を要する爲め吾人は屢ば此實驗を目撃し得ざりき然るに今氏によりて親しく之れが實驗を見るを得且つ其方法の説示を乞ひ得たるは吾人後進を裨益すること甚大にして深く氏の好意と勞とに向つて感謝措く能はざる所なり

醫四 高橋 邦次 郎君

全 北島 辰太郎君

醫三 石坂 正義君

醫四 吉田 稔君

内科二部 丸山 直友氏

時正に正午を過ぐる三十分仍て閉會せり、尙ほ會員外の醫學科三年、四年級の諸君中本會の趣旨を賛し入會希望の人あらば我俱樂部は双手を舉げて歡迎する所なり (邦)

●第六回小立野俱樂部例會 (三月十七日)

春雨柳頭に煙る月例によりて婦人科教室に開く

一、吾人の研究すべき問題

吾人は体内に諸種の複雑なる化學的物質を有す吾人の生活作用は体内の化學的物質の作用によりて調節せらる而して各物質は互に他の物質の作用を補助するものにして此互の關係に違和を來たせば疾病なる結果を招來す之れ「ホルモン」説が學界の注意を喚起し來りし所なりさてスターリン氏の實驗等を述べ内分泌の問題は將來益々吾人が病原上治療上に研究を要すことばる

一、發汗劑に就いて

君は發汗の生理を詳説し次で發汗劑の種類及各作用を述べ次に應用上の注意を明確に説明せられたり蓋し斯かる問題は實地上有益なるものなり

一、犠牲の精神

弱肉強食の世なりと觀じ自の發展を計るためには他を壓排せんとするは現代の思潮也滔々たる世の濁流に従ふべきか將た逆ふべきか吾人が他を排するは己を發展せしむる所以と考ふるは皮相の觀のみ森羅萬象不可離の關係あり他を利するは自らを利するを知らざるなり故に吾人は目前の利得を打算するもなく善良なる目的の爲め社會に貢獻する所あるを要すと論ず (邦)

醫四 河口 二郎君

醫四 内田 憲男君

醫四 高橋 邦次郎君

●恩師鬼頭先生を送る

恩師鬼頭先生は御健康勝れ給はず久しく辭意を有せられしが今や遂に本校を去りて浪華に赴き給ふ吾等は此良先生と別るゝに當りては無量の感胸中を往來し辭克く盡す能はざるものあり

抑も去る四十二年先生が本校に御就任せらるゝや爾來蒲柳の御身を以て一意専心生徒の訓育に肝膽を砕かれ講堂に在るの日も病院にあるの日も溫容を以て懇切なる指導を垂れしこと恰も慈母の愛兒に於けるが如し殊に夫の情弊多き婦人科産科の實習も萬難を排し生徒をして親く經驗するを得しめ給ひしは深く感謝措く能はざる所加之十全會講話部長とならせ給ふや御繁多の身を以て克く同部の發展に盡粹せられ或は實習病院に於ける諸般の改善より本縣衛生事業及產婆養成等に多大の貢獻をなし給ひしこと枚舉に遑あらず先生の手を下し給ひる諸般の事業と教養せられし幾多の徒弟とは例令先生と別るゝと雖も長に金城の天地に在りて年毎に香起せず梅花とならん冀はくば先生學界の爲め吾等の爲め切に御自愛せられんことを聊か蕪辭を草して惜別の情を述ぶ (邦)

●藏光教授を迎ふ

敬愛する鬼頭先生校を辭せらるゝの日吾等は新たに藏光教授を迎ふるの報を得衷心歡喜に不堪也

先生は嚮に東京帝國大學醫科大學を卒業せられ久しく産科婦人科に就きて研鑽せられしところ其學殖の豊富なる其德望の高き世既に定評あり吾等が此先生を迎ふる幸福蓋し大なり加かも先生は鬼頭先生と母校を同うせらるゝを以て恰かも異体同心と云ふも不可なけん

先生が年來の蘊蓄を授けらるゝの日今や近し吾等は鶴首して先生を迎へ奉

り永く訓諭指導を仰かんことを冀ふ蕪辭を草して歡迎の辭とす (邦)

叙任及辭令

●内閣

明治四十五年三月二十日

金澤醫學專門學校教授 鬼頭 英

依願免本官

東京帝國大學醫科大學助手 藏光長次郎

任金澤醫學專門學校教授

叙高等官六等

七級俸下賜

人事

●丸山直友氏

(四十二年卒業)は病理學教室より内科二部に轉學中の氏は尙研究の爲め東上さる。

●澤村恒松氏

(四十四年卒業)は卒業後石動病院に勤務中なりしが今回石川縣警察醫を命ぜらる。